

## 研究ノート

## 「親学」尺度作成のための予備調査

## —自由記述式アンケートから—

木 下 城 康

## はじめに

本論の特徴は、親学講座の受講者に対するアンケートということである。ねらいは、既存の講座を見直すことと、新規に「親学」検定や尺度を検討するにあたり、質問項目の選出を目指すことである。その意味で、尺度作成の端緒として位置づけられる。

今回は、自由記述式アンケートに寄せられた内容を整理分類し、研究ノートとして記述する。なお、データ処理には統計解析ソフト「SPSS12.0J for Windows」を用いた。

概要は次の通りである。

1. 目的：「親学」検定に向けた尺度の作成のための予備調査。
2. ねらい：自由記述式アンケートの分析を行い、質問項目作成の手がかりにする。
3. 期間：2008年4月から11月にアンケート調査を行った。
4. 方法：親学推進協会が主催する「親学アドバイザー養成講座」の無記名自由記述式アンケート796枚から無作為に標本100を抽出し、分析者3名で内容分析を行った。評定は三人のうち二人以上が一致したものを採用した。
5. 分析項目：評定項目（肯定、中間、否定）と、内容項目（感想・内省、知識・技能習得、希望・要望・決意、質問、その他）とした。
6. 特徴：①無記名である。②講座は全8コマあり一コマ90分。講師は、基本的に毎回異なるが、第一講座、七・八講座は固定している。③開催日によって、一日2コマや3コマ連続して行い、回答はその一日分をまとめて記述した。④全アンケートから抽出したため、同一人物が複数回選出されている場合も考えられる。
7. 内容：
  - (1) 男女比（人）：13：86
  - (2) 年代：無記入3  
20代14人、30代30人、40代30人、50代19人、60代2人、70代2人
  - (3) 質問項目：
 

質問文1「本日の親学講座を受講されて、学んだこと気づいたことをお書きください。」

質問文2「本日の学びを通して、あなたの子育てやお仕事で何か変えてみたいと思うことがあるとしたらどんなことですか？」

質問文3「親学講座全体や、本日学んだ内容などについて、講師陣に対してご要望、アドバイスなどございましたら自由にお書きください。」

(※自由記述のため、ひとつの項目に複数の回答が寄せられたものもあった。)

## 1. 質問文1について

質問文1は、学んだことや感想を尋ねる項目である。

### (1) 内容

各項目の回答割合をみると、「感想、内省」24.2%、「知識、技能習得」53.3%、「希望、要望、決意」20.0%、無記入1.7%

### (2) 評定

各評定は、肯定75.8%、中間20.8%、否定1.7%

以上から、「知識、技能習得」に関わる肯定的な回答が多かったと考えられる。

### (3) 具体例：

#### 【知識、技能・肯定】

「印象に残った言葉は「主体変容」です。まず教諭が変わり親に働きかけることによって親も変わっていくということを改めて感じました。」(女性、20代、幼稚園教諭)

#### 【知識、技能・否定】

「親学講座の進行の仕方が詳しくよく学べました。でも実際にアドバイザーになり進行していくことはとても難しそうでできるかどうか不安です。」(女性、40代、幼稚園教諭)

#### 【知識、技能・要望、決意・肯定】

「子どもにとって親がどれだけ大切か、親にとって子供がとても大切だという事を改めて考えられました。もっと沢山子供と向き合っていきたいです。」(女性、30代、主婦)

0：無記入 1：感想、内省 2：知識、技能習得 3：希望、要望、決意 4：その他

内 容		度 数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有 効	0	2	1.7	1.7	1.7
	1	29	24.2	24.2	25.8
	2	64	53.3	53.3	79.2
	3	24	20.0	20.0	99.2
	4	1	.8	.8	100.0
	合計	120	100.0	100.0	

0：無記入 1：肯定 2：中間 3：否定

内 容		度 数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有 効	0	2	1.7	1.7	1.7
	1	91	75.8	75.8	77.5
	2	25	20.8	20.8	98.3
	3	2	1.7	1.7	100.0
	合計	120	100.0	100.0	

## 1. 質問文2について

質問2は、子育てや仕事で変えてみたいことを尋ねる項目である。

### (1) 内容

「感想、内省」8.3%、「知識、技能習得」17.6%、「希望、要望、決意」67.6%、無記入6.5%

### (2) 評定 肯定88.0%、中間4.6%、否定0.9%

以上から、「希望、要望、決意」の肯定的な回答が多かったといえる。

### (3) 具体例

#### 【希望、要望、決意・肯定】

「幼稚園で保護者・親に接する先生方へのアドバイスに活かしたい。まず職員間で行ってみたい。父母会役員との集会をもちたい。」(男性、50代、幼稚園副園長)

#### 【希望、要望、決意・否定】

「おたより等の中で概念的に伝えられることはあるかもしれませんが、現場でより具体的にというテーマはあまりなかったように思います。」(女性、40代、幼稚園教諭)

#### 【感想、内省・中間】

「どうしておもちゃが片付かないのかと悩んでいたのですが、自分が整理整頓できていない姿を見られていたのだと思うと、反省してしまいました。」(女性、20代、専門職)

0：無記入 1：感想、内省 2：知識、技能習得 3：希望、要望、決意

内 容		度 数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有 効	0	7	5.8	6.5	6.5
	1	9	7.5	8.3	14.8
	2	19	15.8	17.6	32.4
	3	73	60.8	67.6	100.0
	合計	108	90.0	100.0	
欠損値	システム欠損値	12	10.0		
合計		120	100.0		

0：無記入 1：肯定 2：中間 3：否定

内 容		度 数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有 効	0	7	5.8	6.5	6.5
	1	95	79.2	88.0	94.4
	2	5	4.2	4.6	99.1
	3	1	.8	.9	100.0
	合計	108	90.0	100.0	
欠損値	システム欠損値	12	10.0		
合計		120	100.0		

### 3. 質問文3について

質問文3は、その他、学んだ内容や講師に対する要望やアドバイスを尋ねる項目である。

#### (1) 内容

「感想、内省」27.6%、「知識、技能習得」2.9%、「希望、要望、決意」15.2%、その他1.9%、無記入52.4%

#### (2) 評定 肯定34.3%、中間3.8%、否定9.5%

以上から、無記入が多く、次いで「感想、内省」の肯定的回答が多かったといえる。

#### (3) 具体例

##### 【希望、要望、決意・中間】

「親学自体の考え方、子どもに対する愛着の重要性等については現職に就いておられる多くの先生方がよく理解し共感できるところではないか。と考えます。反面親御さんへの援助、指導について難しさを感じておられる方も（私も含めて）多いのではないのでしょうか。随所にヒントはいただきましたが、より実践的な保護者とのかわり方が盛り込まれるとより役立つ講演になるのではないかと感じました。」（男性、20代、教諭）

##### 【希望、要望、決意・否定】

「資料がもう少し整理されていると見やすかったです。」（女性、40代、主婦）

##### 【感想、内省・肯定】

「今回は非常に聞きやすく、受講生たちが能動的に講座を受けられたので楽しかったです。やはり聞くだけの内容より参加型の方が講座を楽しくそして考えながら受けられると思いました。」（男性、30代、製造・建設業）

0：無記入 1：感想、内省 2：知識、技能習得 3：希望、要望、決意 4：その他

内 容		度 数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有 効	0	55	45.8	52.4	52.4
	1	29	24.2	27.6	80.0
	2	3	2.5	2.9	82.9
	3	16	13.3	15.2	99.1
	4	2	1.7	1.9	100.0
	合計	105	87.5	100.0	
欠損値	システム欠損値	15	12.5		
合計		120	100.0		

0：無記入 1：肯定 2：中間 3：否定

内 容		度 数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有 効	0	55	45.8	52.4	52.4
	1	36	30.0	34.3	80.0
	2	4	3.3	3.8	82.9
	3	10	8.3	9.5	99.1
	合計	105	87.5	100.0	
欠損値	システム欠損値	15	12.5		
合計		120	100.0		

#### 4. まとめ

質問文1は、「知識、技能習得」に関わる肯定的な回答が多く、質問文2は「希望、要望、決意」の肯定的な回答が多かった。また、質問文3では、「無記入」、次いで「感想、内省」の肯定的回答が多くみられた。

この結果から、質問文1は講座で扱った知識について、受講者が学習した内容を重視した項目に改善する方向が見出せそうである。質問文2では、受講後の決意が多く述べられていたものの、漠然とした回答が多かったように見られた。そこで、より詳細な項目を設定し、実践に移しやすいように改善することが望まれる。質問文3では、講座内容や講師に対する要望、アドバイスを述べることから、無記入の回答が多かった。しかしながら、少数ではあったが、要望が寄せられることもあったので、それらを項目化し、選択肢を設けて、講座内容の改善につなげられそうである。

内容分析を通して感じたことを述べると、親学講座の受講者には大きく2種類あり、一つは親の立場で受講するタイプで、もう一つは幼稚園教諭や保育士といった、保護者に接することを前提する専門職の立場である。

前者は自分の子供にどう関わるかを念頭に置いた回答が多く、後者は専門職として関わる子どもとその保護者に接することを念頭に置いて受講しているようであった。

この様子は、これまでの両親のみを対象にした社会教育活動と、専門職の資質向上を目指した研修を同時に開催しているようであり、親学講座の間口の広さを感じた。

本研究の今後の課題は、今回の分析から得られた仮説をもとに質問紙を作成し、改善に取り掛かることである。さらに、改善された質問紙をもとに調査を実施し、信頼性と妥当性の高い尺度作成を目指していきたい。

最後に、本調査にあたってアンケートに協力していただいた方をはじめ、データを提供くださった親学推進協会に御礼を申し上げます。また、分析者として参加していただいた本学高橋ゼミ3年生の五十嵐一隆氏、山崎敏哉氏、全体を通して御助言をくださった島田博祐准教授、並びに日頃から多くのご指導をいただいている高橋史朗教授に心から御礼を申し上げます。

## 参考文献

- (1) クラウス・マイセル他 (著) 三輪建二 (訳) 『おとなの学びを支援するー講座の準備・実施・評価のために』 鳳書房, 2003
- (2) 堀洋道 (監修) 櫻井茂男, 松井豊 (編) 『心理測定尺度集Ⅳー子どもの発達を支える<対人関係・適応>ー』 サイエンス社, 2007
- (3) 堀洋道 (監修) 吉田富二雄 (編) 『心理測定尺度集Ⅱー人間と社会のつながりをとらえる<対人関係・価値観>』 サイエンス社, 2001
- (4) 村上宣寛 『心理尺度のつくり方』 北大路書房, 2006